

はじめに

大谷川放水路は、1974年7月（約40年前）の七夕豪雨で被害を受けた巴川流域の治水対策の一環として建設され、静岡県静岡市葵区古庄付近の巴川から分流し、約6.3km先の駿河湾まで続く放水路である。

大谷川放水路事業の目的

目的は、①「巴川流域における浸水被害の軽減」（巴川上流部の洪水の一部を分水し、巴川流域の浸水被害を軽減させます。）②「大谷川放水路の洪水に対する安全度の向上」（大谷川放水路の水の流れを良くし、浸水被害を軽減させます。）

事業に伴い今回の施工は、大谷川放水路の河床部に護床ブロックを据付け、土砂の停滞防止及び河川の流れを改善する工事になります。

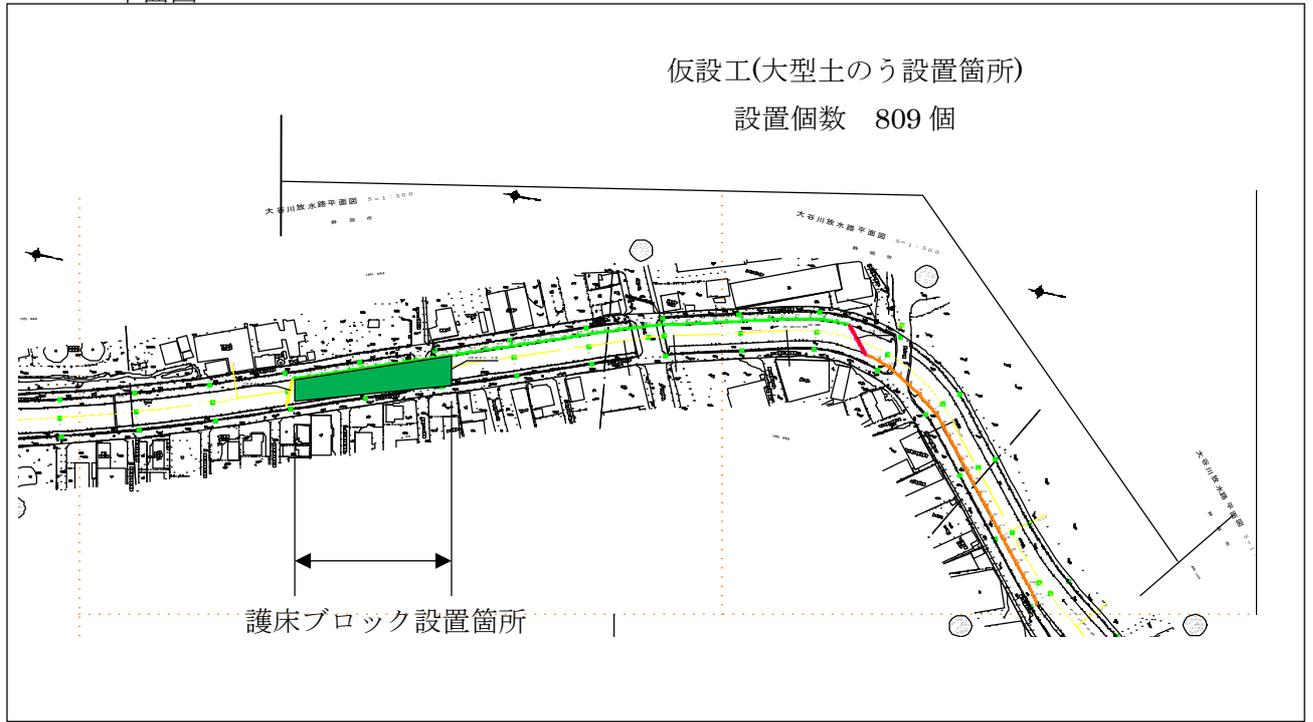
1. 工事概要

工事名 平成28年度[第28-K2452-01号]二級河川巴川（大谷川放水路工区）
総合治水対策特定河川事業(防災・安全交付金)工事（護床工）
発注者 静岡県静岡土木事務所 河川改良課
工事場所 静岡県静岡市駿河区池田地先
工期 平成28年8月9日 ～ 平成29年2月26日

位置図



平面図



工事内容 施工延長 77.7m

河川土工 1式 埋戻工 1式 基面整正 1式 残土処理工 1式

護床工 1式 (護床ブロック設置 1542 個)

仮設工 1式 (水替工・土留仮締切工・仮設道路整備工・希少植物調査)

2.現場における問題点

今回の施工内容において、施工完了後の護床ブロックの見栄えが発注者への評価の対象になる為、出来形管理方法を事前に計画し最終の出来形をイメージし施工管理を行うこととした。

3.工夫・改善とその結果

当作業において『護床ブロックの見栄え確保』をテーマとして以下の工夫・改善を実施しました。

①.丁張りを横断方向に12列(12.5m)間隔にて丁張りを設置。

丁張り間隔について理由

丁張り間に水糸を張る際、たるみが発生する限界の位置に丁張りを設置及び丁張り材等が、大雨により下流部に流された際、流失物を最小減にしたい為。

12.5m間隔丁張り



②機械掘削後、人力作業による基面整正及び高さ確認の実施

基面整正は、1m間隔で水糸を張り高さをこまめに確認するように指示・確認しました。理由としては、基面整正の高さを均一にすることにより、護床ブロックの据付作業及び護床ブロックの見栄えに影響する為、協力業者さんに協力し基面整正時の管理をしました。

また、湧水用水路を施工し床付け面の状態確保に努めました。



人力作業状況



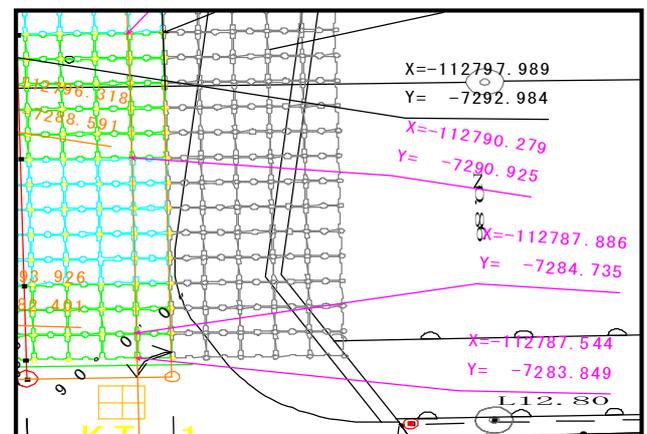
高さ確認状況



湧水用水路確保

③日常管理の徹底

社内規格値の50%以内を目標に現場管理をしたく、基面整正後、基準高の確認を実施し規格値に以内になっているかを確認し管理測点以外も日常管理表に記載し管理しました。また幅員・延長管理においては、割付図を活用し、横断部端部箇所を座標管理にて実施しました。



割付図を活用した座標管理図

◎工事成績採点の考査項目について

今回の現場において、出来形管理工事成績採点の満点を目標に現場としては『護床ブロックの見栄え確保』を目標として進め管理をしてきました。

しかし、工事成績採点の基準となる考査項目を理解し進めなければ、満点にはほぼ遠いので、施工開始前に『工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表』を参考に現場管理に努めました。

